

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第53号

(題字は支部長)
令和4年8月1日
発行者
内田 眞 弘

一口メモ

コロナ禍の退散を願う

副支部長 大岡 由男

大里支部総会が理事会を以て開催され、令和四年度の活動が無事に始まりました。

しかし、コロナ禍が根絶せず、安心できる日常が戻って来ていません。依然として感染者数が高止まりの状況が続いており、先行きが不透明で、計画している活動が実施できるかどうか甚だ心配です。県下全地区でも殆ど活動ができていないようです。

県の理事会でも、地区によっては大変困っている様子が報告され、良い取組があったら紹介して欲しいとの質疑がありました。そこで、内田支部長が大里支部近況報告集「架け橋」の紹介をしたところ、大変有意義な実践であったと好評を得ました。人との関わり合いが希薄な昨今、まことにタイムリーな実践であり「大里は一つ」であ

ると実証でき得る取組でした。

コロナ禍により、退職校長会の行事が実施できずに悔やまれることが一つあります。「幻に終わった県定期総会」です。実施二年前の平成三十年に全く白紙の状態から立ち上げ、新井前支部長を中核にして実行委員会を組織し、何とか無事に開催できる運びとなったことです。しかし、令和二年四月に県本部からコロナ禍により中止との連絡を受け、開催を断念したことです。折角準備したのに残念と思う反面、ほっとした気もあることはあったのですが…。

更にコロナ禍が追い打ちを掛け気忙しい日々となり困っています。町内自治会活動を初めとして、大我井神社、菩提寺、小学校区の役員など多くの仕事を仰せつかっています。現役の時は勤めがあり断ることができましたが、引き受けざるを得ず多忙な日々となってしまいました。コロナ禍により多くの活動が三年間も中止か延期になり実施できていません。いざ再開

となった時に円滑に運営できるかどうか、甚だ不安に思うのは私人ででしょうか？

四回目のワクチン接種がまことしやかに心配されていますが、今は唯々コロナ禍の退散を強く願うのみです。一日も早く特効薬が見つかり、笑顔に溢れた日常が戻って来る日々を願って止みません。

大里支部総会 報告

埼玉県退職校長会大里支部総会
は、五月十四日熊谷市江南公民館において、規約第十一条「緊急の場合」の規定により支部の理事と役員とで開催されました。出席者は三十六名で、要項に沿って議事が進められ、全て議案通り承認されました。概要は次のとおりです。

先ず内田眞弘支部長の挨拶では、昨年度のコロナ禍での独自の取組として会員相互の近況報告集「架け橋」の内容を分析したお話がありました。その中で、最も多かった内容が、これまでの経歴を生かして教育に係る仕事に携わっていることです。次に多いのが野菜作りでした。全ての内容について詳細な報告をされ、各方面でキャリアや趣味を生かして活躍してい

ることが浮かび上がりました。また、理事研修会は熊谷ラグビー場の見学、会報のカラー化を予定していることが話されました。

来賓祝辞では、新井俊一県副会長が本部の動向として、①秋の関ブロ大会の開催②デジタル化の推進(例としてオンライン展覧会)③校長の定年延長に伴う対応について紹介がありました。退職校長会としても新たな課題に向き合っていることが伝わってきました。

また、お二人ともに、各事業の活性化には多くの会員参加こそが大事であることを述べられました。

(文責 神谷 為義)



随想



わが母校、懐かしき友

熊谷東 外村 浩

今年、日本最初の近代的学校制度を定めた教育法令である学制が公布されて一五〇年となります。この年に設置された学校は、開校一五〇年を迎えます。該当される学校では、記念行事等予定されていることと思います。私の母校である熊谷西小学校もその一つです。

思い出ごとく私が小学校卒業の年は、ちょうど開校一〇〇年でした。そして、記念行事として、タイムカプセルを埋めました。当時の四年生と六年生はその二〇年後にそれぞれのカプセルを開封することになっていました。クラスの代表者が二名ずつ集まって、「タイムカプセルを開封する集い」と題し、一九九三年四月二十九日に開催しました。(四月三〇日は熊谷西小学校の開校記念日です。)カプセルには大きな壺を利用しましたが、同封した防腐剤が多すぎたためか、紙類は劣化してしまつたものも多くなりました。私の学級六年六組は三六名でしたが、一三名の出席があり、懐かしいひとときを過ごすことが

できませんでした。

あれからさらに三〇年、滅多に連絡のない北海道にいる同級生から電話がありました。「今年卒業五〇年だよな。口コナ禍だけど、集まれないかなあ。熊谷にいるお前が音頭をとってくれよ」と。

先日、地域の回覧で西校の学校だよりを拝見しました。そこには「西校一五〇周年プロジェクト」の文字がありました。きつと素晴らしい思い出づくりが企画されていることでしょう。

今、仕事の行き帰りで西校の脇を通っています。子供たちの明るい声が聞こえてくると当時のことを思い出します。年をとつた証拠です。

波久札の駅と 北村西望

熊谷中央 瀧澤 英一郎

彫刻家であり、文化勲章を受賞した西望は、戦中戦後の三年間、矢那瀬の高徳寺に疎開していた。度々上京し、波久札の駅を利用、駅長とも、交流があつたようだ。

波久札には、みかん狩りやハイキング、寄居かんぼの宿で寛ぐ等、多く駅を利用して来た。それなのに西望の

句碑があるのを見落としていた。改札口を出て、まっすぐ進むと国道に面して、石碑がある。高さは一メートル位。それには、

波久札から 日暮れて

梅の花 白し

波久札から 河や桜など

ぶらりぶらり

西望

と、ある。昭和三十年には、長崎平和祈念像を製作している。柔和な顔は、神と仏の慈悲を表している。天に向けて高く掲げた右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を。横に伸ばした右足は原爆投下後の長崎市の静けさを、立てている左足は救つた命を表し、軽く閉じた目は、戦争犠牲者の冥福を祈っていると、いわれている。

昭和三十年、熊谷市観光協会役員の発案で、直実公の銅像建設協賛会が結成され、井の頭文化公園にあるアトリエへ赴き制作を依頼。三年後に完成、熊谷駅北口広場で除幕式が行われ台座のレリーフに

熊谷の花も実もある 武士道の

かおりやかし 須磨の浦風

九一寿 西望

と刻まれている。これを記念して全世界に、直実公のミニチュア像が配られた。また、市街地を流れる星川の上流には、戦災者慰霊の女神像がある。

アルミニウムで作られている。戦災三十年にあたり建設された。熊谷直実公の銅像も、戦災者慰霊の女神像も、波久札からの縁があつたからだろうか。

家庭果樹園の試み

熊谷西 新井 守

熊谷市西別府の新井家に来たのは、四十二年前のことです。当時二反(六百坪)の敷地は半分が庭畑で、残りが家屋と物置と木を植えた庭でした。その木は、柿と梅合わせて数本と防風林を兼ねた大きな杉と椿がありました。柿や梅の実を特に活用することもありませんでした。

定年を機に敷地の活用を考えました。たまたま、北側の市道が拡幅・整備されることになり、そこに植えてある木々が伐採されることになりました。そこで、他の木も伐採して、家庭菜園ならぬ家庭果樹園を作ってみることにしました。

現在、敷地には林檎のフジツガル・世界一・シナノスイート・秋映・ぐんま明月の六種類八本があります。柿は梨は幸水・豊水の各一本です。柿は以前からあつた富有柿とタイシユウです。その他に、スモモや温州みかん、柚子、夏みかん等があります。林檎や梨・スモモ等のバラ科の樹木はほと

などが自家受粉では果実はできません。自家不和合性といえます。開花期や相性を調べて、適切な受粉樹を植える必要があります。

昨年、林檎・梨に数百の袋をかけたのですが、カラス等の鳥や虫に食べられて、近所や親戚に配ることができたのは、二百個たらずでした。カラス対策の遅れ等反省点がたくさんあります。

ツガルやシナノスイートは、我家の庭でも十分に真赤に色付きますが、フジや世界一はうまく色付きません。これからも、別府の気候に適した品種や栽培方法を研究し、見て楽しい、食べておいしい家庭果樹園をめざしてがんばりたいと思っています。

古稀を迎えて

熊谷南 松葉 定市

昨年十月で古稀を迎えた。六十代との違いなのか、その日の夜、気が付くと腹部や腕のあたりが赤みを帯び湿疹ができていた。

昼間、長らく借用していた隣の家の畑を返却するため、生えてきた皇帝ダリアを切り倒す作業をしたことにより被れたのかと思つた。

翌朝になつても症状が消えず、皮膚科を受診した。患者が多く、しばらく待つことになつたが、その間に赤

みが消えていた。そのため病名もわからず、処方された塗り薬をいただき、帰宅した。

しかし、その日の夕方にはまた同じ症状が現れた。翌朝、起きた時点では症状が見られなかったが、やがてまた腕や脚に赤みが生じてきた。今度は携帯で写真を撮り翌日に皮膚科を受診。その結果、じん麻疹と診断された。

飲み薬で数日のうちに完治したが、数年前に罹つた帯状疱疹といい、免疫力の低下を実感した。

以来、時間を見つけては体力の低下を抑えようと努めている。竹踏み、腕立て伏せ、腹筋、ダンベル体操、そしてスクワット。また、散歩を兼ねた朝の見守り活動も続けている。そのせいか脚力の衰えは感じずに過ごせている。

年明け早々、吉岡自主防犯パトロールの副会長を務めていただいていた同級生が急逝された。昨年の夏、検査入院との連絡を受けたが、秋ごろには酸素ボンベを携行した生活となり、暮れに再入院。

そして、わずか半年で帰らぬ人となつてしまった。聞けば、他にも既に永眠された同級生も少なくないのと。とても天命とわりきれない。人生百年時代、せめて平均年齢くらいまでは元気でいたいと思うこの頃である。

御柱祭

熊谷北 根橋 文武

わが家の玄関に、「おんべ」が鎮座してもう七年になる。「おんべ」とは、木の幹をかんなどで削り房を付けたもので、御柱と呼ばれる巨木を氏子たちが力を揃えて曳く際に使われるものである。

今年も数えて七年に一度巡り来る御柱祭の年であった。春の訪れの遅い信州の野山が新緑から鮮やかな深緑へと染まる頃、故郷の信州のあちらこちらから木遣り唄が響き始める。老いも若きも夢中にさせる御柱祭の幕開けである。祭は、「山出し」から始まり「里曳き」を経て、クライマックスの「建御柱」へと進む。この時季の故郷は、祭一色となり、「はあーっ、氏子の皆様あー、力をあわせてお願だからっ…」の木遣り唄のリズムが信州人の胸を熱くする。

私が故郷を離れてからももう五十年余が経つ。信州で育つた日々の三倍もの年月を関東の地で過ごしたことになる。しかし、どれほどの年月を経ようとも、七年ごとに巡り来る御柱祭の時季になると、心が弾むのを抑えられないのである。

信濃路や御柱の風吹きわたる

しかし、今年も祭への帰省は叶わなかった。新型コロナウイルスがその理

由である。聞けば、影響は祭そのものにも及んでいた。豪壮な「坂落とし」は中止となり、「山出し」は大型トラックで御柱をけん引したとのこと…嗚呼。

次の御柱祭は、七年後である。私自身の七年後となるといささか心もとないが、コロナを乗り越えた郷土の祭の完全復活を信じて待ちたい。

論語を楽しむ

深谷北 関口 良子

渋沢栄一翁が新一万円札の肖像に、そして大河ドラマの主人公になると発表されたことをきっかけに、栄一翁の生き方の根つことなつた論語について学びたいという声寄せられ、「論語を楽しむ会」を立ち上げた。月一度、論語の素読が主で、「青天を衝け」のドラマの進捗と共に、栄一翁に関する講話も入れて回を重ねてきた。

栄一翁が生まれた「中の家」には、父市郎右衛門の論語の教えが「家風」となつて家族を熏陶していた。子供の頃の栄一翁に「いいかい栄一、あんただけがうれしいんじゃないかって、みんながうれしいんが一番なんだで」と言い聞かせた母の言葉。この母の言葉

は、論語「子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」である。また、役人の嫌疑の目から逃れるため京へ旅立つ榮一翁に、「道はまっすぐではありません。」孔子様も『過ちて改めざる、これを過ちと謂う』とおっしゃっております。曲がったり、引き返したつてよいではありませんか」と言った妻千代の言葉も論語である。「家風」となっていた論語の教えは、ドラマを通して「ドラマ風」になって、視聴者の我々をも薫陶すべく包み込んだ。

この四月、素読を終えたSさんが、看護師となり一人暮らしをする娘さんに、習った論語の中から「子曰く、賢を見ては齊しからんことを思い、不賢を見ては内に自ら省みる」を贈った、と話してくれた。論語の教えと母の想いを胸に頑張っている白衣の姿が、目に浮かぶ。

ドラマ「青天を衝け」は終わってしまったが、今でも「ドラマ風」を感じながら「子曰く、学んで時に…」と素読を楽しんでいる。

趣味・断捨離

深谷北 宇野 澄男

小学校の校長を退職し、その後深谷市の公立幼稚園の園長を四年間勤めました。令和四年三月で幼稚園

の園長も退職し、完全に教育界から身を引きました。これからは、自由気ままな生活をしながら今までなかなか関わる事ができなかった地域の活動に参加していきたいと思っています。ですが、自由になると生活に時間がか余ってきました。そこで何かをしようとするの回りの断捨離を始めました。

一つは本棚を中心に自室の整理です。四〇年間の教員生活で貯まった雑誌や資料、書類の整理を始めましたが、量の多さに驚きます。今となつては必要のないものがたくさんあり、思い切つて処分しています。自室だけでも半年かかるのかなとため息です。

二つ目は、狭いながらも我が家の庭の樹木の断捨離です。二〇数本の樹木を思い切つて剪定しています。植木職人さんみたいに枝振りに拘るのでなく、今は背丈を詰めることを中心に取り組んでいます。すっきりしてくる庭を見て自己満足です。

三つ目は、身体の断捨離です。健康のため歩ける体を作りたい、八〇歳までゴルフを楽しみたいと思ひ散歩を始めました。今は三〇分の散歩ですが、それでも体が軽くなった気がします。今後少しずつ距離・時間を延ばして体力増強と地域を知る機会としていきたいと思っています。

とりあえず始めた三つの断捨離ですが、日課にはしません。日課にして

しまつと義務感みたいなものが生まれ、生活が苦しくなってきました。断捨離を趣味として捉え天気と自分の気分を断捨離に取り組んでいきたいと思っています。

二つめの夢の実現に向かって

チャレンジ中！

深谷中 小林 富治

昨年度、私は念願であった料理の勉強をするために、籠原にある埼玉県調理師専門学校に通うことができました。若い同級生たちと学習、調理実習をする毎日はとても充実していた。制服を着て、毎日同じ時間に家を出て、実習や座学を受ける毎日にはまさに四十五年ぶりの学生生活であった。毎日実習があり、日本料理、中国料理、西洋料理、製菓、製パンなどを学んだ。初めて作り試食する料理もあり楽しみがあった。また、復習のために家でも作った。座学では、栄養学、調理理論、食品学、公衆衛生、衛生法規など食品の安全と衛生などについて学び、知らなかったことを学ぶ楽しさを再体験できた。特にこの年齢になってフランス語を学んだことはとても刺激的であった。教える立場と教わる立場がかわり、今までの自分をふり返ることもできた。

あつという間の一年間であったが、

一緒に学び実習する中で若い人たちとも親しくなれたことは学習とは別に得た貴重なことである。一年間、専門学校で学び、無事「調理師免許」を取得できたことはこの上なく嬉しいことである。

今まではただ料理していたが、栄養面や健康面を考えながら調理をするようになったことは学習した成果かなと思う。

知り合いから「調理師の資格を取り店でも開くの？」とよく聞かれる。私の二つめの夢は「英語の教師になること」これは実現し楽しい有意義な教員生活を送ることができた。二つめの夢は、「好きな料理を生かしてお店を開き、週二三日ほど働きのんびり過ごすこと」である。そんな意味からも今はまだ夢の実現に向けてチャレンジ中である。

むっすいっ頑張るか！

寄居 奥 直

「先生、勝ちちゃいました」ジュニアアスリート大会（新人戦の代替県大会）決勝戦後の部長の信じられないという感じの笑顔と嬉しさ百％の一言でした。

その後、三月に千葉市で行われた関東中学生選抜ソフトボール大会に出場し、茨城県の代表チームに勝

ち三位という栄冠を勝ち取る事ができました。

私は今、自分の母校の部活動指導員をやっています。部員はたった九人で、ほとんどが初心者、コロナ禍で練習が思うようにできない状況の中で大きな成果でした。

子どもたちの凄いいところは、コロナ禍で練習ができないときでも自分でできることを探し、素振りをしたり、家族とキャッチボールをしたり、普段の練習では全員が揃うと時間前でも練習が始まり、キャッチボールの相手がいないと先生お願いしますとやる気満々の集団で、自慢の娘たちです。

この子どもたちからたくさん元気をもらい一緒に過ごせる幸せをしみじみ感じます。そして、子どもたちを育ててくれた保護者や先生方、地域の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

まもなく、私も古稀を迎えます。コロナ禍で人との関わりが希薄になり、社会との関わりもおろろろになりつつあります。数年前までは七十歳にならたら一切引退しようと考えていました。しかし、今は少しでも老化を遅らせ元氣な八十代を迎えるために、自分の生まれ育った地域社会で誰かと協働したり、誰かの役に立ったり、誰かに必要とされていると感じることはこれからも続けていきたいと思っています。

ます。それが少しでも元氣な八十代を迎えるための秘訣かもしれない。もう少し頑張るか！



新入会員の声

新しい生活のスタート

熊谷中央 飯野 幸和

今年度より大里退職校長会に入会させていた、だくことになりました。三十六年間の教員生活を終え、現在は、熊谷市スポーツ協会でお世話になっています。教育現場とは少し離れてしまいましたが、こ

れからも子供と接する機会がないわけではありませんので、子供たちの健全育成に尽力いたします。よろしくお願いいたします。

よろしくお願いたしました

熊谷西 吉田 賢司

四月より退職校長会に入会させていただきました。在職中は先輩方から学んだことを活かし、コロナ禍の中、一步一步学校経営を進めることが出来たことに感謝申し上げます。現在は、県立総合教育センターで悩める子供達や保護者からの激増する相談対応で忙しい日々を送っております。今後とも指導よろしくお願いたします。

よろしくお願いたしました

熊谷南 宇野 聡規

三月に熊谷市立荒川中学校を退職し、退職校長会に入会させていただきました。在職中は、多くの方々に支えられ、教職人生を全うすることができました。本当にありがとうございました。現在は拠点校指導教員として熊谷教育に携わり日々精進しておりますので、今後とも指導の程よろしくお願いたします。

よろしくお願いたしました

深谷北 小柳 百代

多くの方々に支えていただき、お陰様で教職を全うすることができました。今日までの御指導に心から感謝申し上げます。

四月からは、寄居町適応指導教室の指導員として勤めております。児童生徒と共に学び続けられる事を改めて嬉しく感じています。これからもよろしくお願いたします。

よろしくお願いたしました

深谷北 簗輪 進司

多くの方々に支えられて、教職人生を全うできたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。四月より再任用で深谷市内三校の小学校で六名の初任者の指導を行っております。まだまだ仕事に慣れず毎日を過ごしております。この度は本会に仲間入りさせて頂くことを大変有難く思います。どうぞよろしくお願いたします。

兄の分まで、よろしくお願いたします

深谷北 向井 均

四月より退職校長会に入会させ

ていただきます向井均と申します。退職後は、実家の管理と趣味に没頭するつもりでおりましたが、再任用の機会をいただき、現在深谷市内の中学校四校に勤務させていただいております。

二年前に病気で他界した兄の分までがんばりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします

深谷中 寺沢 剛

おかげ様で、三十六年間の教職員人生を全うすることができました。ありがとうございます。

四月から、熊谷市教育委員会にて、学校教育専門員としてお世話になっております。学校現場とはまた違った一日の生活のリズムと仕事に、戸惑うばかりの毎日です。諸先輩方には、引き続きご指導の程、よろしくお願いいたします。

「日々新又日新」の心持ちで

深谷中 石川 浩

昭和・平成・令和と三つの時代をまたいだ三十八年間で、多くの方々に支えていただき、この三月末定年退職を迎えられました。本当にありがとうございます。も

う一年深谷中学校で勤める機会をいただきました。再任用の一年を、「日々新又日新」の心持ちで過ごしてまいります。引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

フランスW杯へ

深谷中 宮前 日出男

三十六年間の教職生活、何とか勤め上げることができたのも、色々な場面で影に日向に支えていただいた皆様のお陰と感謝しております。さて、退職後の今、私の一番の望みは、来年のラグビーW杯フランス大会で、先日日本代表候補として選出された我が教え子がW杯本戦に出場すること。『中嶋大希』、宜しくお願い致します。

感謝 感謝 感謝

深谷南 持田 倫武

臨時的任用教員から中学校の社会科教員へ。そして、県立熊谷養護学校での二年間、海外研修、行政経験…。教員としてのキャリアは少しアンバランスですが、どれもが貴重な経験でした。

お世話になった諸先輩方のお陰で、教師としても人としても成長できたように思います。

ありがとうございます。

毎日が勉強の新しい生活

深谷南 吉野 雅彦

三月三十一日、三十七年間の教職員生活を終えました。雑多な片付けを終え、夜十時ごろに帰宅しました。翌朝から、新しい仕事が始まりました。毎日、長靴にヘルメットをかぶり、住居跡や溝や井戸など、古代から中世の先人の生活の痕跡を掘り出しています。身体も頭も凄く疲れますが、やり甲斐ある充実した日々です。

久々の心機一転

よろしくお願いいたします

寄居 丹羽 大恭

「無事」の重みを痛感し、お仲間入りできることに「感謝」です。現在は、会計年度任用職員として週に三日勤務しております。今までにない長い休みに戸惑いながら、亡き父から引き継いだ寺と高年齢の母親から受け継いだ小さな畑を守っております。また、地元の学校運営協議会で、微力ながら学校のお手伝いをしております。

無駄な時間を楽しむ

寄居 横田 茂男

日本の健康寿命は世界的に高いので、私には十五年残されています。

ゆったりとした時の流れの中で一日を始めています。ですが、実家の手入れには辟易します。トラクターデビューも果たしました。五葉松の剪定も怠ることができません。脳の衰えは隠せませんが、身体を酷使しますので、T社の体組成計は三十代を示しています。

50代でも感謝の心で

寄居 櫻井 仁志

令和四年三月三十一日、教員生活最終日。振り返ってみると、苦しかった事、辛かった事も数多くあったが、それでも喜べた事、感動した事等の充実した日も決して少なくはなかった。こうした教員としての日々を何とかやってこられたのは、やはりその時々を支えて頂いた多くの人達のお陰である。報恩感謝の心を持ち続けたい。



地区だより

武蔵武士 別府次郎

熊谷西 瀧口 裕史

北武蔵・熊谷の地には、千年前あたりから武士団が生まれ、平安時代の初期には辺境の田舎に過ぎなかつた武蔵國が、やがて政治の中央・京都からも注目されるほどの力をつけていきます。

鎌倉時代の武蔵武士としては、平家物語で有名な坂東武者の熊谷直実は周知のとおりかと思えます。しかし、ここ埼玉県北の地にはこの他にも多くの武蔵武士たちが活躍しています。

中でも、熊谷市別府地域に居住していた武蔵武士に、別府次郎の名があります。別府氏は、武蔵國の名族成田氏の系統をひき、成田助高の二男行隆が別府の地を領有し別府氏を名乗つたのが始まりで、その行隆の長男の義行が東別府に居住し、二男行助が西別府に館を構えたとされます。

平安時代も末期になると、京都では撰閥家の争いから保元の乱が起こり、武蔵武士は目覚ましい働きをしました。そこには熊谷付近の武士の名が記録されています。熊谷直実の他、別府次郎、奈良三郎、玉井四郎の名もありました。さらに、一一五九年(平治元年)には、平清盛と源義朝の対立から平治の乱が起こりました。この戦いにも、熊谷氏の他に、成田氏、別府氏、玉井氏、奈良氏

の武士たちが活躍しました。一一八四年(元暦元年)東別府館の義行は、源頼朝の木曾義仲追討の時に源頼朝に従ったとされます。また、香林寺を建立した別府清重は、一一八三年(寿永二年)に、源義経に従い一ノ谷の戦いで功をあげました。

その後、源頼朝の挙兵、源平の戦い、鎌倉幕府の成立等全てにわたり、熊谷の地付近から興つた武士団である武蔵武士の力が大きく関わつていたのでした。現在、熊谷市西別府の安楽寺に、別府氏の墓があります。

この安楽寺にある別府氏の墓は、大小二基の五輪塔と、三基の板石塔婆です。この塔婆は上部にキリク(阿弥陀)種子(梵字)と月輪をおき、その下に銘文があります。

なお、この板石塔婆は、文和三年(一二三四年)の紀年が示すように、南北朝時代の代表的なものです。

(埼玉県指定史跡 別府氏の墓)

昭和十一年三月三十一日 指定
平成二十四年三月一日

埼玉県教育委員会
熊谷市教育委員会



第十二回秋季親睦ゴルフ大会

令和四年六月七日(火)、前日に梅雨入りし天候が心配される中ではありましたが、上里ゴルフ場に十四名の参加をいただきました。多少軟弱なコース状況ではありましたが、午前中は楽しくプレーすることができました。午後は降雨のため中止とし、九ホールでの結果集計となりました。

- 大会の結果は、次のとおりです。
 - ・優 勝 島崎 一雄
 - ・準 優 勝 小林 晃一
 - ・第 三 位 室岡 寛昭
 - ・ベ ス グ ロ 小林 晃一
- (文責 小林晃一)

受 章 者

秋の叙勲(班順、生年月日順)

熊谷班 金子 一美 様
根 橋 文 武 様

高齢者叙勲(班順、生年月日順)

熊谷班 来 間 平 八 様

深谷班 内 田 昇 一郎 様
寄居班 志 村 邦 資 武 様
小林 弘 様

事務局だより

幹事 鶴岡 信好

○水墨画同好会は活動を継続
同会は、小林芳雄氏(☎0481-58810472)のご尽力により、活動を続けることになりました。歴史のある同好会です。皆様の参加をお待ちしているのとことです。

○水墨画・絵画同好会作品展の開催日程が決定
11月25日(金)〜27日(日)に、例年通り熊谷市文化センター市民ギャラリーで、実施の運びとなりました。力作揃いの作品展です。ぜひともご覧ください。

○退職校長会大里支部の歴史を調べています。
昭和43年4月に60名で発足した同会です。事務局では、各年度の総会要項を保存していますが、平成22年・23年そして、平成19年以前の支部総会要項がございましたら、寄贈していただけると有り難いです。





文芸

俳句

鎌倉花だより

熊谷西 新井俊一

花吹雪浴びて小走り建長寺
 雨あとの椿鮮明円覚寺
 陽春に舞姫煌く八幡宮
 大仏に囁くごとく舞う桜
 母の手に眠る幼や花疲れ

春から夏へ

熊谷南 原口一明

気も新たゆかしき香り梅の花
 日だまりの蓬見るたび母の味
 春雨に菜の花けむる鐘の音
 桜咲き心底願う平和の世
 夜明け前鳴き声のみぞホトトギス

始動

熊谷北 福島裕

葉を固めスクラム組みし春菜かな
 冬眠の夢から覚めし種ニンニク
 真青なる天を仰いで土佐水木
 枝広げドレスの如き大手毬
 デジタルで旧きジャズ聴く春の宵

俳句五題

深谷南 志村邦資

我が庭に凜と芽生えて梅の花
 早春の山波眺め遊歩道
 デイサーピス初碁を打ちて午後のどか
 鯉のぼり元気に雄姿のぞかせて
 薔薇の花健気に咲きて宝登の山

短歌

感謝

熊谷西 岡田菊江

梅の実を広げし納屋にあふれたる
 香りの中に亡き母をみる
 亡き母が日毎参りし三猿は
 すました顔して坐しいたり
 三猿よ教えておくれ亡き母の
 悩み苦しみ共有したし
 ・三猿（見まい、聞くまい、話すまい）

夏空への想い

寄居 高橋信安

グラマンの鋭き機影夏の空
 寄居駅舎に無言の弾痕
 歳重ね耳の聞こえに悩む日々
 われを励ます子等の気づかい

「おやすみ」とさよならとつぶやき二十年
 やさしい亡妻はこころの中に



写真説明

紙面を飾る写真は、写真同好会の齊藤重利先生に提供していただきました。加須市民平和祭での「ジャンボこいのぼり」は長さ100m、重さ330kgあります。巨大なクレールにより大空を雄大に泳いでいました。



「文芸」欄のリニューアルに伴う 作品の公募について

カラー化に伴い、次号五十四号掲載予定の作品を募集します。これまでの文芸に加えて、「写真」「絵画」「書」「水墨画」「彫塑」「陶芸」などの平面・立体作品の写真も可能です。希望される方は、各地区の広報部員へご連絡いただきますようお願いいたします。

編集後記

会員の皆様のご協力により、第五十三号が完成しました。一層臨場感を味わっていただくため、掲載の写真をカラーとしました。次号、皆様の様々な作品のご応募をお待ちしております。

年度 4年員 裕己一 明史 明明 敦伸
 和 4部 郁慎 裕一 年
 令 4部 島村 尻林 山口 口田 野
 和 4部 福松 沼小 瀧原 飯栗 栗 鴻

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十三号)

発行 令和四年八月一日
 発行者 支部長 内田 真弘
 印刷所 株式会社 博文社
 熊谷市本石一 一三 四

〇四八(五二)三〇六三